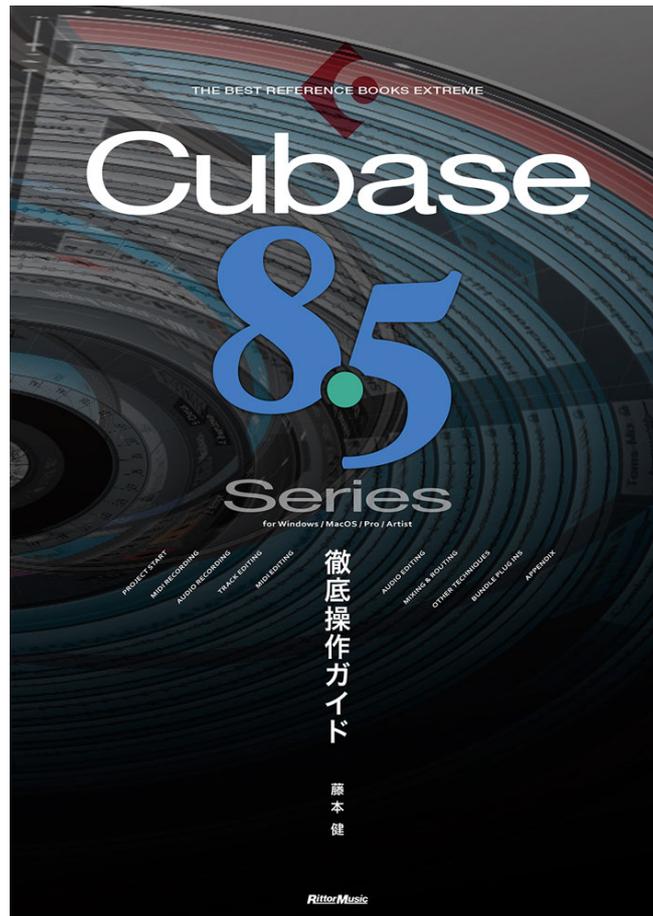


各 位

2016年1月13日  
株式会社リットーミュージック

Steinberg Cubase シリーズ最新バージョン、Cubase Pro/Artist 8.5 に完全対応！  
最も詳しく、最も使いやすい操作解説書が、2月25日に早くも登場！



インプレスグループで音楽関連の出版事業を手掛ける株式会社リットーミュージック（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：古森優）は、2月25日、書籍『Cubase8.5 Series 徹底操作ガイド』を発売します。

●最も詳しく、最も使いやすいCubase8.5シリーズの実践的チュートリアル・ブック

本書は、昨年12月に発表されたばかりのSteinberg Cubaseシリーズの最新バージョン、Cubase Pro/Artist 8.5に完全対応した徹底操作ガイドです。Cubase Pro/Artist 8.5の各種機能の操作手順を、実際の音楽制作時に必ず直面する130以上のケースごとにフルカラーで解説。他書の追随を許さないほどの高密度な内容と圧倒的なボリュームが特徴となっております。アマチュアDTMerに抜群の信頼を誇る著者、藤本健氏が手がけた本書をフルに活用して、Cubase 8.5シリーズのパワーを120%引き出してください。

## 《書籍》

THE BEST REFERENCE BOOKS EXTREME

Cubase8.5 Series 徹底操作ガイド

□定価：(本体 3,500 円+税)

□仕様：B5 判／432 ページ

□発売：2016 年 2 月 25 日

□発売：リットーミュージック

詳細はこちら <http://www.rittor-music.co.jp/books/15317123.html>

### 【CONTENTS】

■PROJECT START

■MIDI RECORDING

■AUDIO RECORDING

■TRACK EDITING

■MIDI EDITING

■AUDIO EDITING

■MIXING & ROUTING

■OTHER TECHNIQUES

■BUNDLE PLUG INS

■APPENDIX-Multi Index-

◎著者 PROFILE 藤本 健 (ふじもと けん)

ライター兼エディター、フラクタル・デザイン代表。DTM や DAW、オーディオ、レコーディング関連の記事を中心に雑誌や Web など執筆する。Impress Watch の AV Watch で週刊の連載を 10 年以上続けるほか、ブログ型ニュースサイトの DTM ステーションも運営している。著書に『コンプリート DTM ガイド・ブック』、『コンプリート DTM 制作ナビ・ブック』、『これからはじめる DTMer のためのやさしい基礎知識』、『THE BEST REFERENCE BOOKS Cubase8Series 徹底操作ガイド』（リットーミュージック刊）、『ボーカロイド技術論』（ヤマハミュージックメディア）、などがある。

# 07 ドラムエディターを使ってステップ入力したい

リアルタイムMIDIルーティング以外にもMIDIデータの入力方法はいくつかあります。中でも正確なリズムを刻むドラムトラックはステップ入力での打ち込みができる代表的です。Cubase 8.5のドラムエディターでは青色のノートイベントの長さを独立して設定することも可能となっています。

## STEP 1 ドラムエディターを開いてステップ入力機能を有効にする

プロジェクトウィンドウで選択ツール $\text{①}$ を使い、ステップ入力を行うMIDIイベントを選択した状態で、MIDIメニューからドラムエディターを開く $\text{②}$ を選んで、ドラムエディターを開きます。またすでにドラムマップを読み込んでいるMIDIトラックであれば、選択ツールで目的のMIDIイベントをダブルクリックすることもドラムエディターが開きます。

ステップ入力を行うために、まずドラムエディターのツールバーに用意されたステップ入力ボタン $\text{③}$ をクリックして有効させます。こうすることでステップ入力が有効となり、MIDIキーボードからの入力が受け付けられるようになります。

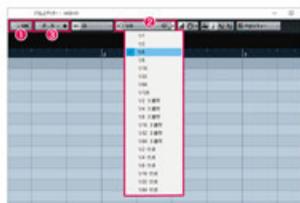
$\text{①}$  MIDIイベントが選択されていない状態でステップ入力機能を使用すると、プロジェクトウィンドウで選択ツールを使って目的の位置をマウスでクリックし、あらかじめMIDIイベントを選択してから上記の操作を行います。



## HOW TO ドラムエディターでノートイベントの長さ、長さ、入力間隔を設定するには

まずMIDIキーボードを弾くことで入力されるノートイベントの長さ、長さ、次のノートまでの間隔などをそれぞれ設定します。長さの設定は挿入時ペロシエ $\text{①}$ 、次のノートまでの間隔設定はクオンタイズプリセット $\text{②}$ 、ノートイベントの長さの設定はノート長のクオンタイズ $\text{③}$ で行います。

$\text{④}$  グローバルクオンタイズを使用していない場合は、クオンタイズプリセットのメニューで選択した値は有効になります。



## HOW TO MIDIキーボードの鍵盤からドラムエディターでノートイベントを入力するには

ステップ入力ではリアルタイムで演奏する必要はなく、ゆっくり弾いても正確なタイミングでの入力が可能です。

目的の位置にカーソルを移動させMIDIキーボードの鍵盤を1回押すと、ノート長のクオンタイズで設定した長さ、かつ挿入時ペロシエで設定した長さのノートイベントが入力されるとともに、クオンタイズプリセットで設定した間隔だけ入力ライン $\text{④}$ が伸びます。同時に鍵盤を押すことで次の打ち音の同時入力も可能です $\text{⑤}$ 。

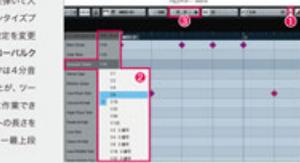
$\text{⑥}$  特定の力、速度や加速度の入力、入力の上り下りなどは「特定の力、速度」の有効化、入力の中心値に対して「平均」を使用してください。



- $\text{①}$  ノートオンペロシエをオンにしていると、MIDIキーボードを弾いた際の長さもそのままペロシエ値に反映されます。
- $\text{②}$  ピッチを選択をオフにしていると、MIDIキーボードの鍵盤を弾いてもC3のピッチのノートイベントが入力されます。

## HINT & TIPS ドラムマップの音色ごとに入力間隔を設定したい

他のMIDIエディターからのステップ入力では、鍵盤を弾いて入力されるノートイベントの間隔はツールバー上のクオンタイズプリセットで設定し、入力間隔を変える場合はその設定を変更する必要があります。その点、ドラムエディターではグローバルクオンタイズ $\text{①}$ をオフにすることで、たとえばキックは4分音の間隔、スネアは2分音の間隔で入力するといったことが、ツールバー上のクオンタイズプリセットをいじり変えずに作業できるようになります $\text{②}$ 。このとき入力間隔とノートイベントの長さを同一にしたい場合は、ノート長のクオンタイズ $\text{③}$ のメニュー最上段にあるドラムマップとリンクを選択しておいてください。



# 08 チャンネルごとに任意のエフェクトをかけたい(インサートエフェクト)

エフェクトをかけたいチャンネルに接続VSTエフェクトを配置するという、シンプルかつわかりやすいエフェクター・ラック方式がインサートエフェクトです。Cubase 8.5では各オーディオチャンネルごとに最大8個(プリフェーダー扱い16スロット)のVSTエフェクトをインサートエフェクトルーティングで使用することができます。

## STEP 1 チャンネル設定ウィンドウを開く

MixConsoleウィンドウ上の各チャンネルやプロジェクトウィンドウ上のトラックリストの中から、インサートエフェクトを利用したいチャンネルのトラックの選択ボタン $\text{①}$ をクリックして、チャンネル設定ウィンドウを開いてください。

$\text{②}$  MacConsoleウィンドウ上では、選択ボタンをクリックしたチャンネルは選択されます。

$\text{③}$  インサートエフェクトは、プロジェクトウィンドウのインサートエフェクトメニューから設定することもできます。



## STEP 2 インサートエフェクトとして利用したいVSTエフェクトを目的のチャンネルに配置する

インサートスロットには1つのチャンネルに最大8つまでのVSTエフェクトを配置することができます $\text{①}$ 。

信号は上から下に向かって順に流れます。上の6つがプリフェーダー扱い(フェーダーでレベル設定とエフェクトへの入力レベルは無関係)フェーダーのレベルを変更してもエフェクトの出力レベルは変わりません。下の2つがポストフェーダー扱い(フェーダーでレベル設定によってエフェクトへの入力レベルが変化)エフェクトの出力レベルが変化します。通常はプリフェーダー側のスロットを利用します。

目的のインサートスロットをクリックして、利用したいVSTエフェクトを配置してください。通常は最上段のインサートスロットにCompressorを配置し、さらに上から2番目のスロットにMod Machineを配置することで $\text{②}$ 。



## STEP 3 配置したVSTエフェクトのパラメーターを設定する

インサートスロットにVSTエフェクトを配置すると、自動的にオンとなり、パラメーター設定パネルが開きます。パネルはVSTエフェクトの種類によって異なるので適宜各種パラメーターの設定を行ってください。

なお、使用するVSTエフェクトによってはディレイ/コーラスやリバーブ系のようにエフェクトのかけない音(ドライ)とエフェクト音(ウェット)の両方が選べてはじめて所定の効果が得られるものもあります。このタイプのエフェクトをインサートで使用する場合は、バランス設定パラメーター(Mix)は50(または50:50)に設定するのが基本となります $\text{①}$ 。

またエフェクト処理前後の音を書き比べながら調整したいときは、個々のVSTエフェクトのバイパスボタン $\text{②}$ をクリックして待機(バイパス)状態にしてください。インサートスロットに配置されたエフェクトを一時的にバイパスさせたいときは一括のバイパスボタン $\text{③}$ を利用します。

$\text{④}$  Automationキーを押しながらVSTエフェクトのスイッチボタンをクリックして有効化させ、エフェクトの音量を調整することができます。エフェクトの音量はUIに対応する音量で設定しやすくなります(バイパス状態では、多少の音量に調整が難しくなります)。



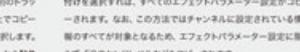
## HINT & TIPS インサートスロットへの配置順序を入れ替えるときは

複数のVSTエフェクトをインサートスロットに配置した場合、信号は上から下へ各VSTエフェクトを経由して順に流れるため、どのような順番で配置するかによって、最終的な効果は変わります。VSTエフェクトの配置順を入れ替えるには、名称の部分を上下にドラッグします。これで入れ替え可能な状態になるので、そのまま設定したい場合にドラッグしてください $\text{①}$ 。



## HINT & TIPS 同じエフェクト設定を別のチャンネルにそのまま適用したいときは

1つトラックに設定したVSTエフェクトの内容を、別のトラックに適用したいときは、まずMixConsoleウィンドウ上でコピーボタンを選択し、編集メニューからコピーを選択します。その後コピー先のチャンネルを選択し、編集メニューから貼り付けを選択すれば、すべてのエフェクトパラメーター設定がコピーされます。なお、この方法ではチャンネルに設定されている他のチャンネルも選択し、編集メニューからコピーを選択すると、[Ctrl+Cmd]キーでもコピーされます。



## VST EFFECTS

DELAY CATEGORY

### ModMachine

Pro Artist

ModMachineはCubase Proにのみ用意されているユニークなエフェクトです。ディレイとフィルターが組み合わされた仕組みで、ディレイーション用のDriveパラメーターも用意されているのが特徴です。

Delayではディレイタイムを設定しますが、下にあるsyncボタンが点灯しているときはテンポシンクが有効となり、その場合はベースノート値（拍）を設定します。Rateではディレイモジュレーションのペースノート値を設定します。この下にもSyncボタンが用意されており、Rateパラメーターのテンポシンクのオン/オフを切り替えます。

Widthではディレイピッチモジュレーションの量を設定します。Feedbackではディレイのループ回数を設定します。Driveではフィードバック音に加入するディレイモジュレーションを設定します。Mixではドライ音（原音）とウェット音（エフェクト音）のミックスバランスを調整します。

中央のディスプレイには信号の流れが表示されており、クリックすることでFilterセクションをDRIVE/FEEDBACKパラメーターの前/後に入れ替えることができます。

Typeはフィルターのタイプを示しており、クリックすることでローパス/バンドパス/ハイパスを切り替えることができます。Freqではフィルターのカットオフ周波数等を、SpeedではFDSレートを設定します。

range Lo/Hiではフィルターフリークエンシーモジュレーションの範囲を設定し、Spatialではフィルターフリークエンシーモジュレーションのステレオ効果を設定します。Q-Factorはフィルターのレスポンスを設定します。



### MonoDelay

Pro Artist

MonoDelayはテンポシンク機能も備えたモノラルディレイです。Delayではディレイタイムを設定します。下のsyncボタンをクリックするとテンポシンクがオンとなり、プロセクトのテンポに同期します。Feedbackではディレイのリピート回数を設定します。Filter Lo/Hiではフィードバック音に対して低/高音域別にフィルター効果を設定することができます。

それぞれの下のボタンでオン/オフを切り替えます。Loは10~800Hz、Hiは1.2~20kHzの範囲を受け持ちます。Mixではドライ音とウェット音のミックスバランスを設定します。



370

### PingPongDelay

Pro Artist

PingPongDelayは左右のチャンネルを飛び回るような効果を加える、いわゆるピンポンディレイです。テンポシンク機能も備えています。Delayではディレイタイムを設定し、syncボタンによってテンポシンク機能が有効になります。Feedbackではディレイのリピート回数を設定します。Filter Lo/Hiでは設定によってフィードバック音に対してフィルターを低/高音域別にかけることができます。それぞれの下のボタンでオン/オフを切り替えます。Loは10~800Hz、Hiは1.2~20kHzの範囲を受け持ちます。Spatialでは左右のステレオ幅を設定します。右に回すことで



ステレオ効果が強調されます。Mixではドライ音とウェット音のミックスバランスを設定します。

### StereoDelay

Pro Artist

StereoDelayは左右チャンネルが独立した、テンポシンク機能も備えるステレオディレイです。同じパラメーターが2つずつ用意されており、完全に独立した設定ができます。Delayではディレイタイムを設定し、syncボタンによってテンポシンク機能が有効になります。Feedbackではディレイのリピート回数を設定します。



Filter Lo/Hiでは設定によってフィードバック音に対してフィルターを低/高音域別にかけることができます。それぞれの下のボタンでオン/オフを切り替えます。Loは10~800Hz、Hiは1.2~20kHzの範囲を受け持ちます。

Panでは各ディレイのステレオ定位を設定します。Mixでは原音とエフェクト音のミックスバランスを設定します。

### AmpSimulator

Pro Artist

AmpSimulatorはさまざまなギターアンプとスピーカーキャビネットの特性をエミュレートできるエフェクトです。Driveではアンプオーバードライブのかり具合を設定し、Bass/Middle/Trebleで低/中/高音域のトーンコントロールを行います。Presenceでは高域のブーストを調整し、Volumeで全体の出力レベルを設定します。Amplifierでは再帰するアンプの種類、Cabinetでは再帰するスピーカーキャビネットをギンアップメニューから選択することができます。またdamping Lo/Hiでは選択しているスピーカーキャビネットのトーンコントロールを行います。



371

【株式会社リットーミュージック】 <http://www.rittor-music.co.jp/>

□所在地:〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング □設立:1978年4月10日 □資本金:1億円 □決算期:3月31日 □従業員数:93名(2014年3月31日現在) □代表取締役:古森優 □事業内容:音楽関連出版事業

【インプレスグループ】 <http://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス(本社:東京都千代田区、代表取締役:関本彰大、証券コード:東証1部9479)を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「モバイルサービス」を主要テーマに専門性の高いコンテンツ+サービスを提供するメディア事業を展開しています。

以上

## 【本件に関するお問合せ先】

株式会社リットーミュージック 営業統轄部出版営業部 宣伝広報 市原  
Tel: 03-6837-4728/ E-mail: [pr@rittor-music.co.jp](mailto:pr@rittor-music.co.jp)